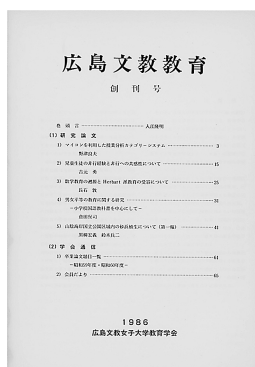


第2節 学科創設当時のこと

前節の目標やポリシー群は、当然のこととして、これまで築かれてきた学科の伝統をふまえたものである。しかし、学科草創期の息吹というものも大切にしなければならない。

そこで、まずは広島文教教育学会の研究誌「広島文教教育」の創刊号（昭和61年12月1日発行）をひも解き、初代学科長であった入江隆明先生の「巻頭言」をかみ締めてみることにする。（下の写真は、同誌創刊号。本文下線は岡が付したものである。以下同様。）



「広島文教教育」創刊号 表紙

広島文教女子大学文学部に昭和56年4月に開設された初等教育学科は、当初からの計画により、他の大学ではできないような特色のある教育をして、実践力のある女教師の育成をめざしてきたのであるが、本年3月第2期生を卒業させることができた。

昭和59年、初等教育学科は完成年度に入り、教員組織は当初の予定通りの体制となり、学生は第1学年から第4学年まで、施設設備も一応の規準に達し、音楽教室棟及びプールも設計を終り着工を待つばかりとなった。この時に当り、児童期の教育の方法を科学的に追究する本学科の目標をさらに発展させるためには、本学科所属教員の教育研究の一層の促進をはかると共に、卒業生の小学校現場における実践的研究のための資料や情報の提供と研究発表の場となり、卒業生相互、大学と卒業生との連携の場ともなる初等教育研究会の組織を作ることが望まれるようになり、昭和60年2月19日、会の名称を「広島文教女子大学教育研究会（仮称）」とし、初等教育学科教員及び学生が出席して設立準備のための会が開催された。

その後、本学に大学院文学研究科（修士課程）を設立し、国文学専攻、英文学専攻、教育学専攻の三専攻とする構想が進められるにともない、今まで考えられていた研究会の組織は、大学院の教育学専攻も含めるために、名称を「広島文教女子大学教育学会」とし、新築の音楽棟で昭和60年12月26日に卒業生も交えて設立総会を開くことができた。

この様な経緯を経て生れた教育学会の機関誌第一号が本誌である。従って、本誌は教育、特に初等教育にかかわる学術研究論文の発表の場であると共に、初等教育学科の卒業生相互間、並びに卒業生と母校間の情報交換あるいは情報提供の場でもある。今後、毎年1回発行予定の本誌が会員諸氏に親しまれるものになり、会員諸氏のそれぞれの道での活躍発展の源を啓培することができれば誠に幸である。

終りに、本誌刊行に当り、物心両面から御援助を賜った広島文教女子大学学長武田ミキ先生をはじめ、原稿を寄せられた諸氏ならびにお世話をされた卒業生及び母校の先生方に、会員一同に代り心から感謝の意を表す次第である。

ここに、本学科の設立当初から、一丸となって取り組んできた方向性を見て取ることができる。すなわち、下線部に如実に表れているように、他の大学とは異なる特色のある教育内容であり、質の高い実践力を身につけさせて世に送り出すことをめざしていた、ということである。実践力を身につけているとは、教育的情熱を持っているという意味だけではない。「児童期の教育の方法を科学的に追究する」といった文言に象徴されるように、理論研究と実践研究を統合的に捉えるという学術性を重視する意味もある。さらに、大学院修士課程も視野に入れ、実践力としての研究的能力を重視していたこともわかる。